

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月8日

【評価実施概要】

事業所番号	4271200554		
法人名	社会福祉法人 愛隣会		
事業所名	グループホーム はさみ里		
所在地	〒859-3726 長崎県東彼杵郡波佐見町稗木場郷798番地1 (電話) 0956-20-7577		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年10月26日	評価確定日	平成19年11月21日

【情報提供票より】(H19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 12 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	15.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建鋼板葺		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日当たり950円		

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名
要介護3	6 名	要介護4	5 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.5 歳	最低 65 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	波佐見病院 太田歯科診療所
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

波佐見病院の併設ホームとして隣接し、周辺には民家、保育所、高校、小学校、公園等あり利便性に優れている。開設当初の理念『家庭生活に近づけるよう支援します』『市民生活を継続します』『家庭的な雰囲気を作ります』『人としての尊厳を重視します』『自立と強調を支援します』の5項目に沿って管理者と職員は、1項目ずつ1日の目標として意識付けに努め常に、入居者の目線に合わせ、できる限り関わりを持ち、個別対応に重視したスローな介護の強化に努め、家族との話し合いの機会を設けている。医療との連携についても、24時間365日の対応をとられ医療面の充実を図られている。外部研修後は、内部に回覧と報告に努め研鑽を重ねられている。入居者本位の支援に職員の細やかな配慮が随所に窺われる。今後も、「1人1研修」を目標に入居者と家族の安全・安心の継続に努められ、家庭的な雰囲気の中で、尊厳のある暮らしへの支援を更に追究されているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回の評価について、改善計画シートは作成されていないが、改善にむけて検討や実践につなげる努力をされている。今後も、理念に沿った職員の意識付けをすることで、介護の強化を継続的に実践されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、すべての項目を真意に受け止め、取り組みの事実を詳細に明記され、職員とも共有を図りサービスの質の向上へ向けての取り組みを実践されている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議を設置して、4月に第1回を開催され、次回は11月に予定されている。民生委員、各ユニット1名ずつの家族代表者、職員を含め6名で構成された会議である。運営推進会議の設置説明等を報告され出席された方々に、会議の意義を理解してもらい双方向的な会議となるよう努められているが、地域に開かれたサービスとして質の確保を図る上で、法人代表者の理解と協力を頂き、地域包括支援センターや行政職員等幅広い立場の方々に参加していただけるよう期待したい。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>入居者の日常生活の様子や行事報告は「はさみ里便り」の広報紙で報告し、健康状態については、家族の訪問時に報告され電話等で報告と説明を欠かず事無く、家族の安心・理解を得られている。重要事項説明書にサービス内容に関する苦情等相談窓口として明記し、家族との連絡は密に取られている。入居者の個別ケア会議に家族の同席もあり、理解と協力を得て信頼関係を深められている。他に、年1回ホーム独自に家族アンケートを取られ反映に努められている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会に加入後、はさみ広報の配布により地域の情報が解り、文化祭の見学・陶器市・棚田の見学・町内駅伝の応援等、町の行事に参加されている。地元の小学校の3年生による「はさみ町探検」で見学訪問後、年賀状や敬老の日に小学生とのおたより交流や下校時立ち寄り寄って来たり、地域の人々と交流を深められている。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自に作りあげられた理念が、玄関ロビーに額入りで明示されている。「家庭生活に近づけるよう支援します」「市民生活を継続します」「家庭的な雰囲気を作ります」「人としての尊厳を重視します」「自立と協調を支援します」以上5項目の理念に基き支援されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティング時に申し送りの伝達と、職員が個別に理念を発表して、一日の業務に意識付けをにおいてケアに取り組むように心掛けて実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入後、はさみ広報の配布により地域の情報が解り、文化祭の見学、陶器市、棚田の見学、町内駅伝の応援等、町の行事に参加されている。地元の小学校の3年生による「はさみ町探検」で見学訪問後、年賀状や敬老の日の小学生とのおたより交流、下校時立ち寄り等、地域の人々と交流を深められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善計画シートは作成されていないが、改善に向けた内容については職員会議で話し合いを重ねてチームワークをとり、実践に繋げる努力をされている。今回の評価は、取り組みの不十分さを深意に受け止め、メモをとっている。今後は、職員の意識を合わせ、気づきを反映して、ケアの取り組みを検討されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4月に第1回を開催されており、民生委員・各ユニット1名ずつの家族代表者・職員を含め6名で構成されている。会議の主旨として、会議の設置説明・年間行事計画・職員研修の説明等をされ、会議の意義を理解して頂き質の確保を図られている。次回は、11月の予定であるが、行政の支援と意見を得るまでに至っていない。		地域に開かれたサービスとして質の確保を図る上で、法人代表者の理解と協力を頂き、地域包括支援センターや行政職員等、幅広い立場の方の参加を、積極的に働きかけ双方向的な会議となるように期待したい。

グループホーム はさみ里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と連携を図るまでには、至っていない。		法人併設の利点をいかしてホーム独自の連携を図れるように、又、運営推進会議への出席を望めるよう積極的な働きかけを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の日常生活の様子や行事報告を「はさみ里便り」広報紙で報告し、健康状態は家族の訪問時に報告を行い、電話等で報告と説明を欠かす事無く、家族の納得を得られている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付については、重要事項説明書にサービス内容に関する苦情等相談窓口として明記されている。家族との連絡は密に取られ、入居者の個別ケア会議には家族の同席もあり理解と協力を得て信頼関係を深められている。他に、年1回ホーム独自に家族アンケートを取られ反映に努められている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と入居者が、馴染みの関わりをもてるように職員の異動を行わない方針で、密接な関係が図られている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は、研修及び新人指導計画にそってまず「グループホーム」とは・・・から理解をしてマイノートに記録され、仕事を通じての研修に努め、管理者も職員の育成に努力している。勤務体制の状況を把握した上で「一人一研修」を目標とし、外部研修後は報告書を回覧して会議の場で報告し職員間の情報の共有に努められている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のホームより個人的に相談に来られ又地域のケアネットに加入して、相互交流を図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>職員と家族が、話し合いを重ねられ利用者の状況の把握に努めて、馴染みの顔での関わりをもてるように心掛けて、できるだけ環境を変えない努力で入居の促しを図られている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、常に入居者に寄り添い、関わりを持たれている。男性入居者はドライブを楽しみ、女性入居者は食器の片付けや献立のメニューを書くなど、出来る事への支援をされている。広告紙に手書きの手作り歌詞ファイルを各自手元に持ち、入居者の合図とリズム打ちで馴染みのある歌を唄いとても和やかな時を過ごされ職員の暖かみのある支援が伺えた。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者に常に寄り添い、思いや意向を聞いてあげる事を大切に、日々の関わりの中で声を掛け些細な気付きの把握とできる事への支援に努められている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>開設当初から、入居者個人のケア会議を3ヶ月～4ヶ月に1回又は、入居者の状態に合わせ随時に家族の同席も依頼し、午後2時より実施されている。入居者の食事・排泄・清潔・移動動作・衣服着脱・精神活動・服薬管理等詳細にケア会議情報提供表を作成されている。介護計画は、長期・短期目標の計画を作成されている。又、必ず家族に報告と同意を得られている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画及び目標を変えた事の報告は、必ず家族に報告と同意(記名捺印)を得られている。介護計画の見直しは、3ヶ月を目途に入居者の自立を促す事を目標において、出来る事が出来なくなった原因の追究を介護者の目線で随時取り組まれている。</p>		

グループホーム はさみ里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の併設病院より理学療法士の指導を受けて、ホームでの生活の場で歩行、立位練習を重ね、入居者の状況、要望に応じたりハビリを併設施設で週2～3回取り組まれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の病院のほかに、皮膚科など行きつけの専門外来への受診に対応されている。病院受診は、状況を確認してホームで対応されるが、必ず家族に受診同行の意思確認をされる。家族の「お願いします」の依頼を受け、ホーム側が対応されている。受診後に、検査データを家族に報告されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点でホームの見取りの事例はなく、見取り指針は作成されている。家族には説明及び報告はされているが、同意を得るまでには至っていない。今後は、状況に応じての対応を考慮されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営規定に個人情報の保護を明示されている。職員は、理念に基づき入居者の尊厳を重視して施設内勉強会の実施を反映し、入居者への言葉かけに配慮されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に基づいて、職員の意識付けを行い、入居者本位の介護に努め個別対応に重視した関わりを大切に、入居者の希望にそって支援に努められている。		

グループホーム はさみ里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のお宅を訪問した際、収穫された柿を昼食のデザートに取り入れ、語り合いながら楽しく食事をされている。職員は、入居者と一緒に食事をされ、さり気なく介助されている。メニューの味付けや彩りもよく、汁物の具材も多く、温野菜で食べやすく細やかな配慮が伺える。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回に決められてはいるが、入居者の希望を伺い支援されている。入居者アンケートで夜間入浴の希望の有無を伺ったが希望者は無く、午前中及び午後利用され失禁時はシャワーなどで清潔に過ごせるよう支援されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の是非と言われるお誘いで、調査終了後、管理者が替え歌の作詞をされ、ホームの歌として日々入居者の方々が歌っておられる歌と一緒に唄い感銘を味わった。他に、入居者が毎食の献立をボードに書き食事を楽しむ事が出来るように促されている。また、入居者が塗られた優しい色使いの塗り絵が掲示され、出来ることへの支援に努められている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の行きつけの美容室に行かれたり専門外来の通院へ外出支援に取り組まれている。他に、入居者の希望に沿って自宅への外出を支援されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	訪問日は、日中玄関に鍵をかけることなく、家族の方が2名訪問され調査終了後、入居者の方々に玄関まで見送りをしていただき鍵を掛けないケアに取り組まれている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営規定に非常災害対策を明示され、防火管理者を設けてある。消防計画に基き消防署立会いの下、出火を想定した避難訓練を年2回(5月・11月)に実施されている。		入居者の安全を第一に考慮して、災害時の避難を確実にできるよう訓練を引き続き実施され、災害時に備え持ち出し品の点検や、入居者の安否確認情報(無料伝言ダイヤル)の利用などにより、家族の安心を得る緊急時対策の体制づくりが望まれる。

グループホーム はさみ里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導を受けバランスの取れた献立で、-日の総カロリー摂取量は1500～1700kcalを目安に、入居者の状態に合わせて調理法等も配慮されている。朝食前のお茶、食事、おやつの際にも水分摂取を補い、夜間も入居者の尿の色を見て、飲み物を居室に準備する等、水分摂取に配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の自宅に職員も同行して、庭の花や果物を収穫して持ち帰り、食堂のテーブルに飾ることで花の名前を話題に会話が交わされている。又、入居者が取り組んだ塗り絵が、掲示されている。共用の場所で居心地よく過ごせるよう入居者の身体状況に合わせて随所に、職員の配慮が行き届いている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が、手作りでベッドカバーやポータブルトイレカバーを作り、居室の入口には、違う色合いの暖簾を掲げ暖かみのある家庭的な雰囲気になるよう努力されている。又、ベットの高さを入居者の安全に考慮して調節したり、打撲する危険のある箇所にはマットを巻きつけ予防策を取られている。		